

山道脇で確認したアズマヒキガエルの繁殖状況について

草間 啓・不破光大・稲村 修（魚津水族館）

Breeding status of Eastern-Japanese common toad *Bufo japonicus formosus* in small pools at the side of mountain road

Satoshi KUSAMA Mitsuhiko FUWA Osamu INAMURA
Uozu Aquarium

はじめに

アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* はヒキガエル科に属し、日本産の代表的なヒキガエルであるニホンヒキガエル *B. j. japonicus* の1亜種とされている。主として本州の東半分の地域に分布し、平野部から山地まで幅広い環境に生息している(前田・松井, 1989)。しかし富山県では、主に山地に生息しており、発見は稀である。

今回、富山県魚津市と滑川市の境を流れる早月川支流の小早月川に沿った山道脇で確認した本種の繁殖状況について報告する。

沿いに、山から浸み出した水によってできた大小3つの水溜りがあり、メス1個体に対し、オス2～3個体が覆いかぶさっている状態(写真1)を3つ確認した。

また、1番大きな水溜りで水深が約12 cm(写真2)、2番目に大きなものは水深約6.5 cm(写真3)で、この2つの水溜りに多くの卵塊を確認した。他には、内臓をえぐ

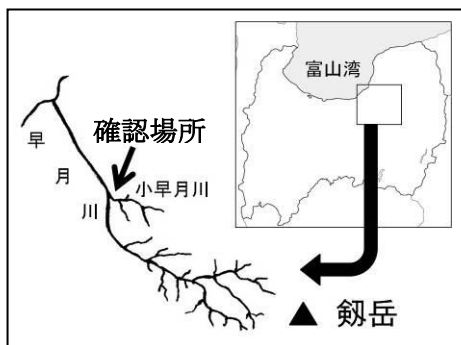


写真1



写真2



写真3

確認事項

日時：2011年5月5日 13時頃

場所：小早月川平等堰堤下・右岸側山道脇

体長：15 cm前後

個体数：11 個体（内、1 個体は死亡個体）

鼓膜が明瞭な事からアズマヒキガエルであると同定した(松橋・奥山, 2002)。山道

られた死体を1個体確認した。

107-120.

まとめ

ヒキガエルの仲間は、特定の繁殖場をもつことが知られ、例え行動域の近くに別の繁殖適合地があっても、そこを素通りし、遠くにある特定の場所まで移動して繁殖行動を行うことが知られており、それぞれのヒキガエルが特定の繁殖場との結びつきが強く、その場でのみ繁殖行動することが示唆されている（浦野，石原，1987）。また，矢野（1978）による調査でも，ほとんどの個体は毎年同じ場所に来て繁殖行動をすることが確かめられている。

これらのことから，今回確認された場所は，ここで繁殖を行う個体群には不可欠な繁殖場であり，生物多様性（遺伝的多様性）の観点からみても重要な場所であると考えられる。しかしこの繁殖場付近では，小早月発電所に関連すると思われる工事を行っており，工事車両通行のため山道のコンクリート整備が行われていた。この繁殖場が失われてしまうと，今後この場所で繁殖行動をしていた個体群が消滅するおそれがあることから，引き続きこの場所での繁殖状況を観察してくと同時に，付近での繁殖状況の調査が必要と考える。

引用文献

- 前田憲男，松井正文．1999．日本カエル図鑑 改訂版．文一総合出版．18．
- 松橋利光，奥山風太郎．2002．日本のカエル 初版．山と溪谷社．16．
- 浦野明央，石原勝敏．1987．ヒキガエルの生物学．裳華堂．49-52．
- 矢野 亮．1978．自然教育園報告，8．